

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援はる		
○保護者評価実施期間	2024年5月1日		～ 2025年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2024年5月1日		～ 2025年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年5月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の年齢層が広く、元教師、保育士、塾講師など専門職経験者が指導者として子どもに関わっていることで、いろいろな方向から子どもの状況や発達について見ることができる。	子どもの発達状況や困っているところをそれぞれの立場で目を向けていけるよう、できるだけ特定の職員と関わることを避けている。	それぞれのこどもの特性やニーズに合わせて支援ができるよう、人のこどもに対して職員全員で支援内容、支援の方向性を考えている。
2	年齢や個々の育ちの幅が広いが、それぞれに多種多様なプログラムを作り提供することができる。一つの空間で異年齢交流ができています。	学習やSSTが遊びの中でも学べるよう工夫して教材づくりをしている。個々の様子に合わせてプログラムを組合せてできたプログラムを作り、できるだけ誰でも対応でき得るものを作ろうとしている。	そのプログラムの目的や方法などを職員間で話し合いながら教材を作り、実際に使いながら試行錯誤を繰り返し改善していく。
3	音楽や工作など、芸術的なプログラムが充実していることで子ども達が自己表現しやすい環境が整えられている。	アートプログラムの教材をできるだけこどもの目線で選べるよう工夫して設置し、子ども達が自由に選択できるようにしている。	職員のスキルアップを目指して研修を取り入れこども達への支援の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別・少人数・指導型なのでまとまった人数の中での支援が少ない。	少人数、個別指導を希望して利用している方が多いので、同じ時間帯にまとめて支援をしづらい。	別日にイベントや外出などの日程を設けて集団で活動するなど集団での取り組みを検討する。
2	地域との連携が十分に図れていない。あまり地域に知られていない。	個別支援が主であるため、個別で取り出している地域連携が難しい。	地域で行われるイベントに参加したり地域の方がデイに来ていただけるような機会をつくるなど方法について検討する
3	空間的に室内で粗大運動をするには限界があり、粗大運動をするために外出をしないといけない。	粗大運動と学習のスペースが隣同士だと大きな音を立てることができない。体を思い切り動かすにはスペースに限界がある。	ヨガやストレッチなど、室内でできる運動プログラムを今後も検討する。職員の人数を充実することで外出できる機会を増やす。